

ダムのおかげ

普段の生活ではダムのことはあまり気にしないかも知れません。しかし、洪水や干ばつに対応するために先人がダムを築いてくれたおかげで、私たちの生活は成り立っています。香川県綾川町の長柄ダムと愛媛県松山市の石手川ダムの例をご紹介します。

■長柄ダム (香川県綾川町)

綾川沿いの地域は香川県でも最も雨量の少ない所とされ、大正元年、7年、13年、昭和9年と続いた洪水・干ばつを契機に、上流の綾上町(現綾川町)で長柄ダムを築造することが発起されました。昭和10年に用水改良事業のかんがい用堰堤として出発しましたが、昭和14年の大干ばつが契機となって、昭和16年に香川県により長柄ダムの建設が長柄池用水改良並びに洪水調節事業として着工されました。戦争により昭和19年に中止されましたが、昭和24年に再開され、昭和28年に完成しました。20年後の昭和48年には高松砂漠と言われるほどの大干ばつがありましたが、綾上町では長柄ダムの水源によって救われたと記録されています。<綾上町教育委員会編「綾上町誌」2005年及び香川県建設技術協会編「香川県土木史」1976年など>



■石手川ダム (愛媛県松山市)

松山市の中心部を貫流する石手川では、昭和18年と20年の洪水により大きな被害を受けたため直轄改修工事が行われましたが、抜本的な対策を検討した結果、河道で処理するよりも、ダムによる洪水調節の方が得策ということになりました。また、昭和42年の干ばつで天水に頼っていたみかん栽培が甚大な被害を受けたことに加えて、松山市では人口増と需要増に対処するために新たな水源の確保が急務となっていました。このため、洪水調節、かんがい、上水道の用水補給を目的として石手川ダムの建設事業が昭和41年度に着手され、昭和48年3月に完成しました。ダム展望台のパネルには、ダム建設工事では徹底した安全管理により224万時間無事故無災害(延べ労働時間)という記録を確立したと記されています。<建設省松山工事事務所編「松山工事四十年史」1985年など>

